

図書館だより

1988. 7. 11

第10巻2号

通巻106号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



翔ぶ船

絵と文
國田
祐作

このごろ、飛行船がゆっくりグラウンドの上を飛んでいる。紡錘形の胴体を銀色に光らせて、見上げれば商品広告が目に入ってくる仕掛けになっている。東京の空にもよく浮かんでいた。ヘリコプターのような喧しい音ではないから、家にいてもすぐ分かる。繫留索をぶら下げたまま飛んでいるところが何となくおかしい。あれは片付けるといわけには行かないものか。みんな忙しいから、ぼんやり見上げている人は少ない。子供たちも知らん顔をしている。

レオナルド・ダ・ヴィンチは空を舞うトビの姿の研究からたくさんの飛行機のデッサンを描いた。彼自身の告白によると、赤ん坊の頃、揺り籠の中にいた彼の所にトビがやってきて、尾を唇のあたりでふるわせた記憶が、鳥の飛翔の研究に駆り立てたという。フロイトはそこにレオナルドの口唇愛的な潜在意識を分析してみせているが、レオナルドはむしろ、生来、強い浮揚感覚と飛翔願望を持っていたのだろう。

私もときどき空を飛ぶ。もちろん夢の中である。

体を立ててちょつとりきむと、足が地上を離れる。少し上昇したところで水平飛行に移ればよい。この垂直離陸のような夢がどんなコンプレックスから生まれるのか、私は分析したことがない。

シャガールの絵には恋人同士が手をつないで、エッフェル塔の上空を翔んでいる情景がよく出てくる。それは愛するベラと彼自身の姿だったかもしれないし、自由な青春の姿を、ホラ、こんな具合にさ、と人々に差し出したのかもしれない。いま若い人たちはよく手をつないで街を歩いている。そのまま空に浮かんでも不思議はない。残念ながら、私はいつも単独飛行である。

画学生のころ、アドバルーンを揚げる仕事をしていたことがある。銀座のビルの屋上から、自分で揚げたうす水色の気球が半ば空に溶けこんでいるのを見上げると、少しもの悲しい気分になるのだった。「アドバルーンの下には貧しい若者がいるのだ」とキザな手紙を友人に書いたら、もう少しマシな仕事はないのか、と甚だドライな手紙が返ってきた。(くにた ゆうさく 教養部教授)

風にそよぐ仮説

—— 図書館活動の弁証法にふれて ——

ニュートンは「私は仮説を創らない」と言ったと伝えられるが、それは天才の話。我々のような凡人は仮説を創り、それを否定し、さらに「否定の否定」を通して進んで行く。それはあたかも「風にそよぐ仮説」のごとしだろう。

仮説の“否定の否定”

新館オープン是我々に一つの期待をいだかせた。

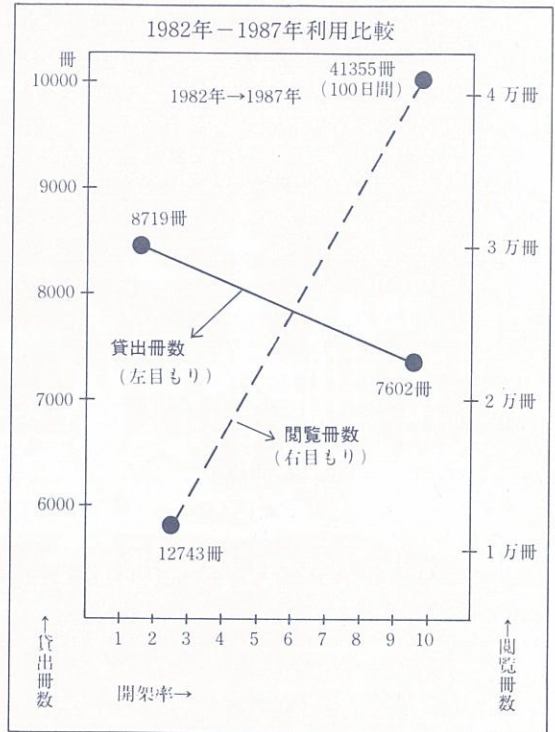
「開架冊数の増大は貸出冊数の増大に通じる」と。しかし、結果は逆になってしまった。「仮説は否定された」かにみえる。

開架冊数は5,000冊から36,000冊へと7倍に。貸出冊数は逆に、1982年とくらべて8,719冊から7,602冊と1,117冊の減少。

たしかに、「閲覧冊数」では大幅な伸びを示したから、それを補っているとみるべきかもしれない。1982年の12,743冊から41,355冊へと3倍強の伸びであった。

しかし、我々は仮説にこだわる。「否定された仮説」をさらに「否定」してこそ図書館活動の弁証法（積極的発展）がもたらされると信ずるからにほかならない。

その原因を次に究明してみよう。



本はどこへ行った？

「この本ありませんか」と言って請求を受け調べてみると60%近くの本がその場で用だてられていない。

<閲覧・レファレンス統計'87>

開館日数	283日
入館者数	185,254人
総貸出冊数	17,739冊
うち学生	7,602冊
総貸出人数	6,076人
うち学生	4,121人
閲覧冊数	41,355冊
グループ読書室利用	66件
レファレンス受付総件数	410件
うち学内処理	53件
レファレンス相互貸借・協力分	357件

	学内→学外	学外→学内	計
複写(件)	131(26)	67	198
借用(件)	59(13)	21	80
借用(冊)	65(12)	25	90
所蔵	43	34	77
他	1	1	2
計	234	123	357

※ () 内は外国依頼

昨年1年間そうした問い合わせが414件あった。うち応えられたのは176冊の42.5%、残りの238冊の56.7%はその場では応えられなかった。そのうち訳は不明102冊で24.6%、貸出中（主に研究本）121冊、29.2%である。

請求された本の回答率

可	42.5%	176冊	不可	56.7%	238冊
		✓	↘		
貸出中	121冊		不明	102冊	
	29.2%			24.6%	

こうした結果は昨年未実施し、その要約が報告された「図書館だより1987年冬季号」でも指摘されている通りである。

これを角度をかえてみよう。今日録カードで1冊の本を調べてみる。それは『ワークブック民法』（遠藤浩，有斐閣）である。この本の所在はどういう結果をもたらしたのか。

ワークブック民法 遠藤 浩著
有斐閣

目録上 7冊ある
書架 1冊もない
貸出 2冊（研究図書）
結果 5冊不明

という有様である。

こうした問題の克服には資料の補充と新しい本の配架に関心を払わずして利用の向上は望めない。我々は“風にそよぐ仮説”に希望をたくしている。

書棚のほこりふく努力を

—ライブラリズムの眼—

他方で2Fと3Fの配架図書がどの様に利用されているかをみよう。

2Fの専門コーナーには15,174冊、3Fの教養コーナーには20,815冊の本が配本されている。これがどのように利用されたのか（貸出と閲覧をふくめて）をみよう。

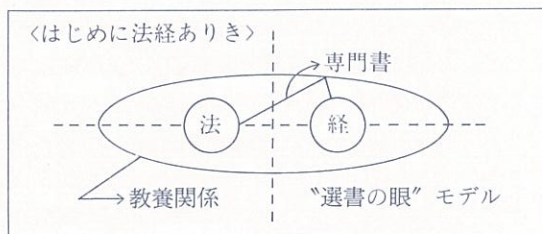
2Fの専門書は25,964冊利用された。配本の1.71倍、他方3Fの利用は22,636冊、1.09倍にとどまる。明らかに「専門書」の利用が高いのだ。

階別ごとの利用率

	分野別	配本冊数	利用冊数	利用率
2F	専門書	15,174	25,964	1.71
3F	教養書	20,815	22,636	1.09
	計	35,989	48,600	1.35

「選書の眼」をしっかりと確立することが求められている。それを図形にたとえるならば「階円形」のポリシーが必要だろう。つまり「はじめに専門書ありき」でなければならぬように思われる。

よりよき利用はレファレンスや広報活動も大切だが、「書棚のホコリをふく」努力からうまれるものだろう。それは「ライブラリズムの眼」とも言える。



昭和62年度図書館統計 昭和63年3月31日現在

▼所蔵冊数 (工学部分室を含む)

和書	洋書	計
263,201冊	95,337冊	358,540冊

▼雑誌受入種類数

	和雑誌	洋雑誌	計
購入	450	442	892
寄贈	1,829	115	1,944
計	2,279	557	2,836

▼過去5年間の増加冊数推移

	和書	洋書	計
昭和58年度	9,400	5,280	14,680 100%
59年	11,648	3,860	15,508 828冊 106%
60年	13,370	6,560	19,930 5,250冊 136%
61年	17,841	6,762	24,603 9,923冊 168%
62年	15,801	5,198	20,999 6,319冊 143%

行刑の理論

慶應通信 (1987)

吉田敏雄

法律学の分野で、刑法学ほど隣接諸科学の影響を受けている分野はないのではなかろうか。戦後間も無くは、N・ハルトマンらのドイツ存在論哲学の影響を受けた目的的行為論、アメリカのT・パーソンズらの機能主義的社会学の影響を受けた機能主義的刑法学が一世を風靡したし、1960年代から1970年代中葉にかけては、アメリカの反体制的社会学の影響を受けた急進的犯罪学、現今では、アメリカはJ・ロールズの正義論、ドイツはN・ルーマンのシステム分析が刑法学に影響を及ぼしはじめている。その間にあって、科学哲学者、T・クーンのいうパラダイムの転換ということも喧伝されたこともあった。

著者が「学者」の卵として研究を開始したのは、何のために議論しているのかわからないと批判されながらも、有力な刑法学者らの関心が人間行為の存在論的構造に向けられていた頃であった。著者も、生米(?)の哲学的関心から、この問題に真正面からとりかかり、若書きとして「刑法における行為概念の研究」を臆面もなく公にしたのである。

その後、西ドイツに二年三月ほど留学する機会に恵まれることになった。関係機関に、留学の研究目標として、行為論のさらなる発展とその実践的有用性を提出した。留学先のハンブルク大学附近のとある書店の書棚にあった一冊の本が偶然目に入った。「法における社会学」。当時の法社会学は、その大理論としての性格から、刑法学の実践的問題にはあまり役立たないと一般的に考えられていたのであるが、この本は、行動主義的心理学の成果をとりいれた要素還元的社会学が法的諸問題、とくに刑法的諸問題の解決に有用であることを説いていたのである。その後、著者は、「法における社会学」の著者、K=D・オップ教授の研究室(ハンブルク大学社会学部)に何度か訪れ、同

教授の薫陶を受けることとなった。

留学中は、実践的関心から、各地の刑務所、とくに受刑者の特別処遇施設である社会治療施設の実態調査も試みた。ドイツでも観念論的観

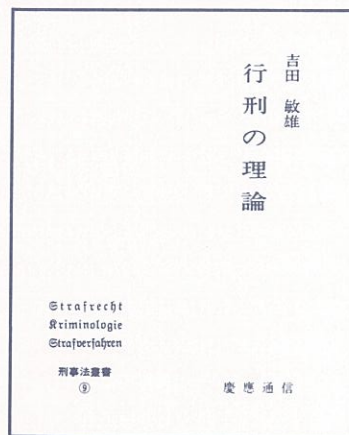
善懲悪思想が根強く、これが合理的刑事政策の障害となっていることを刑務当局者から聞かされた。受刑者と自由に話し合える機会を提供してくれた施設もあった。開かれた刑務所というべきであらうか。

帰国後、研究の成果をまとめるべく準備を始めたが、折柄、刑事訴訟法学の泰山北斗、ドイツのK・ペータース教授の来日したこともあって、再審問題が世間の注目を惹いていたために、著者も、これに関心が移り、同教授著「刑事訴訟における誤判原因」(全3巻)を「誤判の研究」という書名で翻訳出版することとなった(北大図書刊行会)。このために、「行刑の理論」は予想外にその出版が遅れることとなったのである。

本書は、前篇、後篇から成る。前篇は、諸外国、とくにアメリカと西ドイツの受刑者の処遇を、多角的に分析したものである。後篇は、人間の「行動」に焦点を合て、受刑者処遇論、刑罰論を展開したものである。

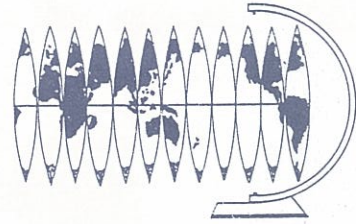
なお、本書は本学図書館に死蔵されている。

(よしだ としお 法学部教授)





イギリスの大学教育



千葉頼夫

私の長期海外研修先である、エセックス大学は、イギリスで、最初に、町制が敷かれた、エセックス州コルチェスターに、戦後、それまでの、学部制ではなく、学系制を導入するなど、新しい時代に即応した、新しい形態の大学として、創立され、筑波大学が学系制を導入する際に、モデルとした大学です。

イギリスでは、一般に、学部の修業年限は三年、修士は一年ですが、教授陣は268名、学部学生は約2,900名、大学院生は約630名、このうち、約750名は、49カ国から来た外国人留学生です。

約25万坪の敷地には、研究、教育施設をはじめ、各種の運動施設、学生寮等が完備し、大学のバーでは、大学が醸造した、「Essex University Wine」さえ飲めます。

大学は、単に、研究、教育の場だけでなく、研究、教育に必要なすべての条件を含めて提供する所ようです。

構内を流れる小川や沼には、オシドリ、カモ、アヒル等が棲みつき、人間とは、餌をくれるものと思って寄って来る、カモやアヒルは、東洋の留学生達のヤキトリや北京ダックの犠牲にされることがあり、「水鳥は我々の共有財産だ！ 北京ダックにするな！」と、抗議の掲示がなされたことがあったが、日本なら、匿名だろうと思うが、名前と連絡場所が明記してあり、己の責任を明確にするのも、これまた、文化の相違か、と感心します。

大学の教育は、教育の歴史のせいか、個人主義社会の表われか、あくまでも、「Tutorial(個人指導)制」であり、勿論、留年指導や成績不良者指導などはなく、自由には、勉強する自由とともに、落第する自由もあります。

よく、「欧米では、大学に入り易く、出にくい」

と、言われるが、入学もそれほど容易ではなく、例えば、エセックス大学の経済学系の場合には、国家統一試験の成績が、経済学がA、数学がAの評点である必要があります。

定期試験の場合、まず、問題は、授業担当者から、教授会に提出され、「問題が簡単すぎる」、「表現が適切でない」などと、議論されて、正式の答案になります。

エセックス大学では、廃止されたが、学生が試験場に入室する際には、ガウンと角帽の着用を義務づけている大学もあります。

試験場では、問題集と10枚一綴りの解答用紙が配布され、試験時間は3時間です。平均的 학생で20枚、優秀な学生で30枚程度の答案を作成します。

マクロ経済学の場合は、30題中10題を解答します。

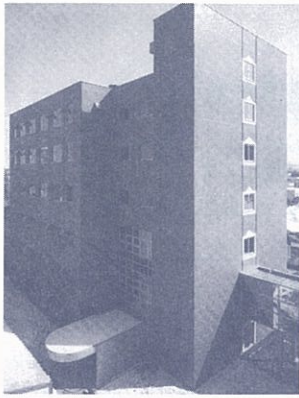
出題範囲は、授業内容は勿論ですが、学期初めに提示される、大体、40冊程度のリーディング・リストにあれば、出題してよく、授業で教えられなかった、ということは、理由になりません。

授業内容を丸暗記しても対応できず、応用力が要求されます。その上、「論評せよ」とされ、自分の意見が求められます。

成績評価は、大学教育の水準を低下させないため、他大学あるいは担当者以外の先生が採点します。成績評価に不服の学生は、採点者の交代を要求できる権利が一応認められています。

このような厳しい中であっても、画一的にならず、個性ある人間が育成されるイギリスの大学教育の源泉はなんだろうか、と思います。

(ちば よりお 経済学部教授)



工学部開設20周年

明治期の山鼻

「山鼻」屯田兵村は、明治八年の召募の旧青森、秋田、置賜、宮城、岩手の藩士及び明治3年既に有珠郡に移住していた伊達邦成の藩士民240戸、男女合せて1,114人が明治9年5月に移住して開設されました。

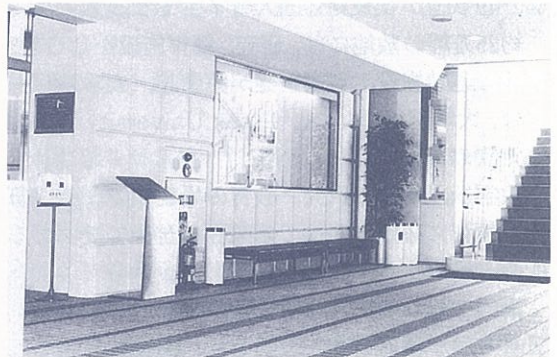
山鼻地区は藻岩連峰の山麓に位置しているところから、いわゆる山の端にあるという意味でこの地方を「山端」と呼び、後に『山鼻』と当字(あてじ)をしたといわれています。もともと藻岩連山の中のモイワとは、アイヌ語では小丘又は小高い丘を意味するもので今日の円山を指して呼ばれたものという。市民が慣れ親しんで呼ぶ今の「藻岩山」はアイヌ語で「インカルシベ」といい、眺望絶佳という言葉だそうです。後に和人は「眺臨山」とよびその山容をたたえ、古来から神霊宿る所と深くこれを信仰し山麓に観音堂を建立、ここから山頂までの途上に三十三体の観音石像を安置しております。春の山開きと秋の山納めには登山者も多くこれが札幌の季節を告げる行事の一つになっていることはご存じの通りであります。

従って山鼻地区の名称は和人の説では、山端が

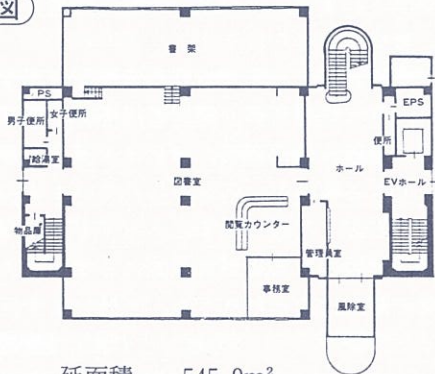
変じて「山鼻」、アイヌのひとつの称したモイワを今は「円山」、インカルシベ山を「藻岩山」と呼んでいるということになります。

さて、アイヌ語ではこの地区を別に『ユクニクリ』とっていました。これは「鹿林」という意味があつてそれ程当時の札幌原野に鹿群がいたことを物語っております。

古い資料によりますとこの地方は、春夏の鹿たちの生息地で、秋の繁殖期には雁木方面の砂地や草原に移動し、更に冬期間は積雪を避けて石狩川や千歳川を渡って日高方面に行つて年を越し、翌年の春にはまた札幌に戻つてきたといひます。



平面図



延面積 545.9m²
座席数 118席

昭和62年度工学部分室統計

昭和63年3月31日現在

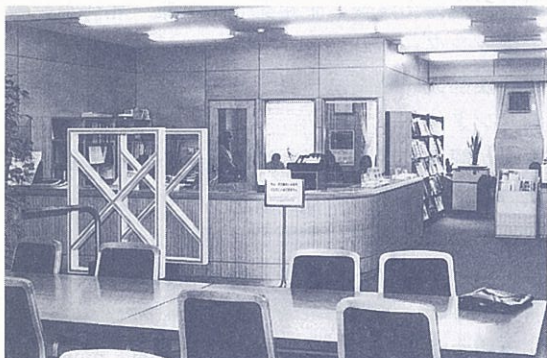
開館日数	278日
入館者数	31,263人
総貸出冊数	4,177冊
うち学生	1,322冊
総貸出人数	1,546人
うち学生	823人
レファレンス受付総件数	104件

「夷諺俗話」にはその様子を次のように記されております。少し長くなりますがご紹介します。

「西えぞ地、石狩川の南の山に住める鹿は、秋89月頃その川を渡りて、東えぞ地シコツというところの山に行く、これは西地は雪深く食物無き故、東地へ移るなり。そのとき人共船に乗り、石狩川の川端に笹草など生茂りたる下に船をつけ、岸より川中へ横に柱を三本さしかけ、その下に船を入れ、隠れて待ちおれば、鹿川に飛び込み、向こうへ渡るところを船乗り出し、川中にて追付き打ち殺すなり。熊渡るときはかまわず、右シコツへ渡しし鹿は春になればまた川を渡りて元の場所に帰るなり……」。

そして鹿群が山鼻方面の鹿林に集合生息すると、かれらの本能に基づいて、種々の野獣らしい生活をしていたそうです。なかでも鹿たちが最も愉快げに繰り返していたことは「角突合い」で古い文献「札幌史料」には次のようにその情景を描いております。

「鹿の角突き合いは、余程慣れないと見られない。細い人声にても勿論のこと、少し息を太くす



るも鹿番は直ちに聞きつけ、鼻を空に向け、フンフンと合図をなせば、一部の鹿は直ちに走り去るものなり。されば大風の日を選び、吉田茂八を案内とし、茂八の家より豊平川を遡り、今の山鼻本願寺の辺りに至り、漸くその実況を見たりき。この日は無言の行にて歩み、風下より漸次に近寄りたるに鹿も気付かざりければ、その始終を詳らかにするを得たり。何百匹ともなき鹿群をなし、牡鹿は皆その角を木または石にて磨き立て居たりしが、やがてそのうちの二匹中央に進み出ずると見えしが、やがてその相手の一方倒るるや勝ちたる牡鹿は、意気揚々角振立て、山麓目がけて馳去りにし、何十匹ともなき牡鹿もみなその後尾に、一時にゴウと音して立去れり、敗けたる牡鹿は踏み留まりてまたまた角磨き立つ。」

今はむかしの山鼻の姿、先人が血と汗で鋤を入れた地の一角に本学工学部校舎が建てられ今年で20年目を迎えました。

レファンス相互貸借協力分

	学内→学外	学外→学内	計
複写	23	4	27
館外貸借	41	3	44

▼所蔵冊数

和書	洋書	計
42,713	11,780	54,493

▼受入冊数

和書	洋書	計
2,809	322	3,131

▼雑誌受入種類数

	和雑誌	洋雑誌	計
購入	149	103	252
寄贈	297	1	298
計	446	104	550

昭和62年度北海道関係図書受入図書(選)

- 研究の進め方・まとめ方 一学生・初心者のためのガイドブック一 白佐俊憲著 川島書店
- 母さんの光る汗 一漁船海難遺児と母の文集一 漁船海難遺児育英会編 海文堂
- 存在論の方法 一その基礎づけと展望の試み一 上岡 宏著 北樹出版
- 新渡戸稲造と武士道 須知徳平著 青磁社
- 北海道キリスト教史 福島恒雄著 日本基督教団出版局
- 辺境の風景 一日本と中国の国境意識一 中野美代子著 北大図書刊行会
- 日本石器時代植物性遺物図録 喜田貞吉著 復刻版 北海道出版企画センター
- 北海道原始文化聚英, 要覧 犀川会編 復刻版 北海道出版企画センター
- 原始文様集 杉山寿栄男編 復刻版 北海道出版企画センター
- 日本原始工藝, 圖版解説 杉山寿栄男編 北海道出版企画センター
- 日本原始工藝概説 杉山寿栄男編 復刻版 北海道出版企画センター
- 日本原始繊維工藝史 一原始篇, 土俗篇一 杉山寿栄男著 北海道出版企画センター
- 有史以前の日本 鳥居龍藏著 磯部甲陽堂
- 伝説史話の詮議史 高山担三著 展望社
- 鎖塚 一自由民権と囚人労働の記録一 小池喜孝著 現代史出版会
- 函館戦争と五稜郭 一御前講演本文蒐録一 宮崎大四郎著 紅茶倶楽部
- 箱館海戦史話 竹内運平著 復刻版 みやま書房
- 江差追分其他 阿部たつを著 無風帯社
- 文化四年松前エトロフヘロシア船廻航 [発行所不明] 1807
- 蝦夷驚固記 一写本一 [著者不明] 1807
- 蝦夷往来 (全14冊) 復刻版第3版 北海道出版企画センター
- 北海道の歴史と文書 一北海道立文書館開館記念誌一 北海道立文書館編 北海道出版企画センター
- 北海道歴史散歩 50コース 北海道歴史教育者協議会編 草土文化
- 年表 北海道の百年 北海道総務部文書課編 北海道文化団体協議会
- 北方考古学叢書 1, 2 みやま書房 1. 北海道縄文時代終末期の研究 2. アイヌ文化の源流
- まんが北海道の歴史 上, 下 石川寿彦著 みやま書房
- 近世蝦夷地成立史の研究 海保嶺夫著 三一書房
- 日本北方史の論理 海保嶺夫著 雄山閣
- 列島北方史研究ノート 海保嶺夫著 北海道出版企画センター
- 北方考古学の研究 菊池徹夫著 六興出版
- アイヌ墳墓盗掘事件 小井田武著 みやま書房
- 北方領土 一写真と解説一 国勢研究所「北方」編纂会編 国土復帰推進協力会
- 河野広道博士没後二十年記念論文集 北海道出版企画センター
- 開拓使前後 越崎宗一著 復刻版 北海道出版企画センター
- 古老が語る民衆史 杉山四郎著 みやま書房
- 北方領土開拓使 一オホーツクのかなた父祖の地は呼ぶ一 推理史話会著 波書房
- 幕末にみる津軽・秋田藩の増毛陣屋 一蝦夷地警衛の記録一 高橋明雄著 朔北詩話会
- 北方郷土・民族誌 1-3 米村喜男衛著 北海道出版企画センター
- 北海道開発文庫 2, 3, 6-10 北海道開発問題研究調査会 2. 北方領土物語 / 3. 北海道のサク / 6. 根室新酪農村までの道 / 7. ビート糖物語 / 8. 土地改良物語 / 9. 北海道21世紀への道 / 10. 北海道21世紀への道 続
- 名寄市文化運動史 名寄市文化運動史編纂委員会編 名寄市文化団体連絡協議会
- わたしの女満別開拓使 大江省二画 オホーツク書房
- オホーツク文化の諸問題 シンポジウム 一その起源・展開・社会・変容一 大井晴男編 學生社
- さっぽろ 大通 札幌の歴史を楽しむ会編 新北

昭和62年度北海道関係図書受入図書(選)

海道教育新報社

わたしたちの街さっぽろ 一札幌市民憲章解説書
一 札幌市札幌市民憲章推進会議編 (同編者)

私の民衆史 [正], 続, 続々 杉山四郎著 みや
ま書房

札幌のおいたち 井黒彌太郎著 みやま書房

北緯43度 札幌というまち… 札幌地理サークル
著 清水書院

北海道豊平町勢一覧 大正十五年 豊平編

さっぽろ大路小路 一札幌いまとむかし一 読売
新聞社編 (同編者)

謎の刻画 フゴッペ洞窟 峰山 巖文/写真 六
興出版

函館郷土史隨筆 阿部たつを著 北海道出版企画
センター

近世渡島地方史 松本 隆著 松前町

埋もれていた箱館戦争 脇 哲著 みやま書房

函館空港・中野遺跡 一東日本における縄文時代
早期貝殻文土器文化の研究一 横山英介編著 み
やま書房

千島樺太侵略史 中村善太郎著 創元社

シベリアの先史文化と日本 加藤晋平著 六興出
版

樺太・千島考古・民族誌 1-3 馬場 脩著 北
海道出版企画センター

樺太とはどんな處か 福家 勇著 樺太日日新聞
社代理部

南樺太はどうなったか 福家 勇著 葦書房
目でみる樺太時代 1, 2 国書刊行会編 (同編
者)

南樺太を忘れるな 全国樺太連盟編 (同編者)

倭漢人物蝦夷圖繪 天明2 (1830) 年頃

アメリカ・インディアン史 W.T. ヘーガン著
北大図書刊行会 (北大選書 13)

ミニットマンの世界 一アメリカ独立革命民衆史
一 R.A. グロス著 北大図書刊行会 (北大選書
6)

銀のしづく降る降る 藤本英夫著 新潮社

私解・定山坊の生涯 合田一道著 太陽

私の一代記 合田善次著 北書房

北海道婦女善行録 北海道廳立札幌高等女學校校
友會編 (同編者)

凍野の残映 一北海道人物誌一 北海道ノンフィ
クション集団著 みやま書房

大鵬が翔ぶ 石井代蔵著 一光社

師団長の私日記 一自衛隊の春夏秋冬一 岩出俊
男著 エイデル研究所

廣島屋八代目文右衛門 平田兵五郎小傳 神山
茂編 函館郷土文化会

北限のニュー・フロンティア 一日本農業賞に輝
く開拓三代目の発想 夏井岩男一 吉柳克彦著
一光社

桑の実 工藤充造著 (同著者)

アシリベックシの丘 一前田静治追想録一 前田
静治著 (同編者)

シリーズ北海道の女 宮内令子著 北海タイムス
社

懐旧録 十津川移民 森秀太郎著 新宿書房

内村鑑三と矢内原忠雄 中村勝己著 リプロポー
ト

荻野吟子 一日本の女医第一号一 奈良原春著作
国書刊行会

どさんこ知事 一堂垣内尚弘の素顔一 沼倉武志
著 北海道時事出版社

宗教人 石川啄木 須藤隆仙著 みやま書房

北海道の女たち 高橋三枝子著 北海道女性史研
究会

島恋ふる賦 一再びまみゆることのありや, なし
や。一 高橋季次著 北海道文化出版

愛すべきガキ大将 山本為世子著 彌生書房

わがマンロー伝 一ある英人医師・アイヌ研究家
の生涯一 桑原千代子著 新宿書房

御雇医師エルドリッジの手紙 一開拓使外科医長
の生涯一 大西泰久編著 みやま書房

クラークの手紙 一札幌農学校生徒との往復書簡
一 佐藤昌彦 [ほか] 編訳 北海道出版企画セン
ター

我等の國土 田中啓爾著 古今書院

昭和62年度北海道関係図書受入図書(選)

氷雪に挑む 一山とスキー写真集— 朝日新聞社編 (同編者)

朝鮮琉球蝦夷[?]ニカラフトカムサスカラッコ嶋 数国接壤形勢ヲ見ル為ノ小図 林子平著 (同著者)

北海道の国立公園と景勝地 北海道景勝地協会編 (同編者)

札幌交通地図 バスルートマップ 1987年版 地勢堂/バス・JR・地下鉄・市電

札幌市区分道路地図 ライラック版 地勢堂

北海道古地図集成 高倉新一郎編著 北海道出版企画センター

地名アイヌ語小辞典 知里真志保著 復刻板 北海道出版企画センター

北海道道路地図 地勢堂編 (同編者)

北海道航空写真図 地勢堂編 (同編者) 釧路・根室支庁版/旭川圏/十勝支庁/網走支庁/札幌 (中央区~東区~西区~南区~北区~白石区~豊平区)

一見でわかる最新札幌市医療地図 1986 北海道医療新聞社編 地勢堂

雑学 北海道歴史の旅 本多 貢著 北海道教育社

オホーツク 春と秋の心象風景 堀 淳一著 そしえて

ゼンリンの住宅地図 北海道 1985—1988

網走支庁: 網走市./北見市./紋別市./美幌町./遠軽町

檜山支庁: 森町・砂原町

胆振支庁: 小樽市./余市町./岩内町./倶知安町./室蘭市./苫小牧市./登別市./伊達市./白老町./虻田町./豊浦町./鶴川町

石狩支庁: 江別市./広島町./石狩町./当別町./千歳市./恵庭市

釧路支庁: 釧路市./釧路町./白糠町./厚岸町./浜内町

上川支庁: 旭川市./名寄市./士別市./鷹栖町./富良野市./当麻町./東川町./美瑛町

根室支庁: 根室市

留萌支庁: 留萌市

空知支庁: 岩見沢市./三笠市./夕張市./砂川市./滝川市./深川市./赤平市./芦別市./歌志内市./栗山町./栗沢町./長沼町

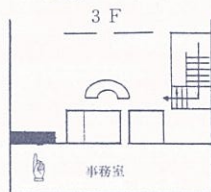
宗谷支庁: 稚内市

十勝支庁: 帯広市./幕別町./音更町./芽室町./清水町./本別町

札幌市区別地図 1-7 (7区) 地勢堂



選書コーナー



あなたも図書選定に参加を!!

— 必要な本の希望リストを投函して下さい —

閲覧室三階, 南東側に選書コーナーを設けました。

- 各種出版目録
- 選定参考資料 (各紙書評切抜)
- 出版年鑑
- 日本書籍総目録

など備付けておりますので, 気軽に, 所定の用紙に必要事項を記載して投函して下さい。

購入希望図書は, 出来る限り希望にそえるよう努力します。

Annual report of the secretary of the treasury on the state of finances. [Microfilm ed.] Washington, D.C. 1870-1874
 Catalogue & index: Periodical of the Library Association cataloguing indexing group. London 20-39 : 1970-1975
 Corona: The journal of her Majesty's oversea service. [London] 1-14 : 1949-162-1962. [Reprint, 1970]
 Decisions of the Federal Maritime Commission. Washington, D. C. 1-21 : 1916&1919/ & 1938-1978/1979.
 Food & wine. New York. 11 : 1988+
 History of economic thought newsletter. Bristol. 4-12 : 1970-1974
 Lloyd's law report. London 1968-1986
 Lloyd's list law report. London 1-84 : 1919-1950/51, 1951-1967
 Lloyd's maritime and commercial law quarterly. London 1974-1985
 Mathematische Nachrichten. Karl-Weierstraß-Institut für Mathematik der Akademie der Wissenschaften der DDR. Berlin: 130-133 : 1987+
 Mathematical programming : a publication of the Mathematical Programming Society. Amsterdam 37-38 : 1987+
 Mountain life & work : the magazine of the appalachian south. Clintwood, Va. 63 : 1987+
 National journal. [Microfilm ed.] Washington 1-18 : 1969-1986
 Report of the secretary of the treasury on the state of the finances. [Microfilm ed.] Washington 1849-1868

Report of the secretary of the treasury of the United States. [Microfilm ed.] Washington 1-6 : 1790/1814-1846/1849
 Revue de droit international privé et de droit pénal international Paris. 1-18 : 1905-1922/23. [Reprint : 1985]
 J. A. Seuffert's Archiv für Entscheidungen der obersten Berichte in den deutschen Staaten. München 1-80 : 1847-1926
 Treaty series. United Nations New York 1-850 (1-12187, 1-684) : 1946/1947-1972
 United Nations conference on the law of the sea : official records. New York [Microfisch ed.] 1-3 : 1958/60-1973/1979 (1958-1980)
 Victorian studies : a quarterly journal of the humanities, and arts and sciences. Bloomington, Ind. 1-29 : 1957/58-1985/86.
 Yearbook of national accounts statistics. (United Nations) New York. 1-11 : 1957-1967
 Wirtschaftsrechtliche Blätter. Wien & New York (Juristische Blätter suppl.) 1-2 : 1987-1988+
 Zeitschrift für das Berg, Hutten und Salinenwesen in dem preussischen Staaten. Berlin 1-73 : 1854-1925

正 誤 表

(前号 (第10巻1号))

タイトルページ	誤	小アルプスにたれよ…
右 9 行 目	正	小アルプスタれよ…
12 頁	誤	昭和44年
写真説明文	正	明治44年



北 駕 文 庫 其 の 二

うん こん し 雲 根 志

早 川 和 夫

2 北駕文庫各分野別冊数

この文庫は第1から第35までの分類となっています。第1詔勅(28冊)、第2神祇(263)、第3宗教(850)、第4経書(1,781)、第5国史(2,407)、第6漢史(2,623)、第7外国史(85)、第8子類(307)、第9文学・語学(1,760)、第10詩文集策議(2,894)、第11叢書(3,445)、第12地理(1,540)、第13法律(1,611)、第14社会(856)、第15教育(805)、第16哲学(64)、第17農書(406)、第18商工交通(331)、第19工学(151)、第20科学(964)、第21林学(47)、第22兵書(1,828)、第23生理衛生(1,116)、第24水産(60)、第25辞典(899)、第26美術(700)、第27音楽(39)、第28工芸(52)、第29地図(269)、第30遊戯・娯楽(41)、第31雑書(185)、第32黒田開拓長官(850)、第33桂將軍(602)、第34小杉博士(371)、第35図書目録(66)、合計30,346冊となります。その他、洋書及雑誌、掛軸等を入れますと前回述べました通り3万1千余冊となるのであります。

これらの内、蔵書数の多い順に並べますと第11叢書(3,445)、第10詩文集策議(2,894)、第6漢史(2,623)、第5国史(2,407)であります。続いて第22兵書(1,828)の多いが目立ちますが、これらは特志家のコレクションがそのまま北駕文庫に収められたのでないかと想像いたします。

理工学関係書としては、第19工学(151)第20科学(964)を合わせますと合計1,115冊となり、北駕文庫全体の約4%が理工図書ということが分ります。今これらの中から江戸の博物学者の見た自然観を示す何冊かの古書を解説してみましょう。

3 雲根志(うんこんし)

中国では古来より雲は山の精気が岩石に触れて出来るという考えがありました。それで岩石は雲の根元であるということから、岩石の異名を雲根と呼びました。

従って雲根志は岩石志すなわち岩石のことを記した本ということになります。ここに述べる雲根

志は江戸の博物学者木内石亭(1724~1808)著の日本岩石鉱物ハンドブックであります。

雲根志は3部より成り、前編は安永2年(1773)、後編は安永8年(1779)、補充編は享和元年(1801)にそれぞれ木版刷りで大阪を出版元として刊行されました。

北駕文庫の雲根志は9冊の分冊に分かれていますが、非常に保存も良好で読んで見ますと色々な興味ある事実が浮んで参ります。

現代の岩石学は物理学と化学を基礎とする科学の一分科で、岩石を薄片にして顕微鏡で観察して岩石を構成する鉱物を光学的に研究したり、今度は岩石を粉にして煮たり焼いたりしてその化学構造を調べあげ、岩石名を決定すると同時に、岩石を造り出したマグマ(岩漿)の本体に迫るという手法の学問であります。

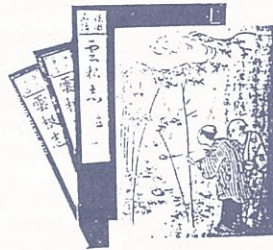
ところが今から200年前の木内石亭時代の岩石研究法は岩石の形にと

らわれたり、色の面白さを主にしました。

例えば雲根志には色々な岩石や鉱物が出て参りますがそのひとつに天狗の爪石というのがあります。天狗は空飛ぶ伝説的怪物で鼻は高く、鋭い爪を持つと考えられました。その爪が地上に落ちて拾われたものが天狗爪石だと江戸の博物学者は考えたわけです。現代の化学ではサメの歯と断定しています。石亭も多少気になったと見えて、「一説にワニ、サメの大魚の歯なり、これまた詳かならず」とクエスチョンマークをつけています。

写真にかかげたのは、竹藪の中に落ちて光る数個の石を町人風の男がいぶかしげに、恐る恐る眺めている図です。今でいう隕石落下の現場と思われれます。竹藪というと竹取物語を思わせるのが面白いと思います。こうした博物学的自然観は明治の初め西欧流の科学が入るまで続けられました。

(はやかわ かずお 工学部教授)



北駕文庫に収蔵の雲根志とその内容の一部